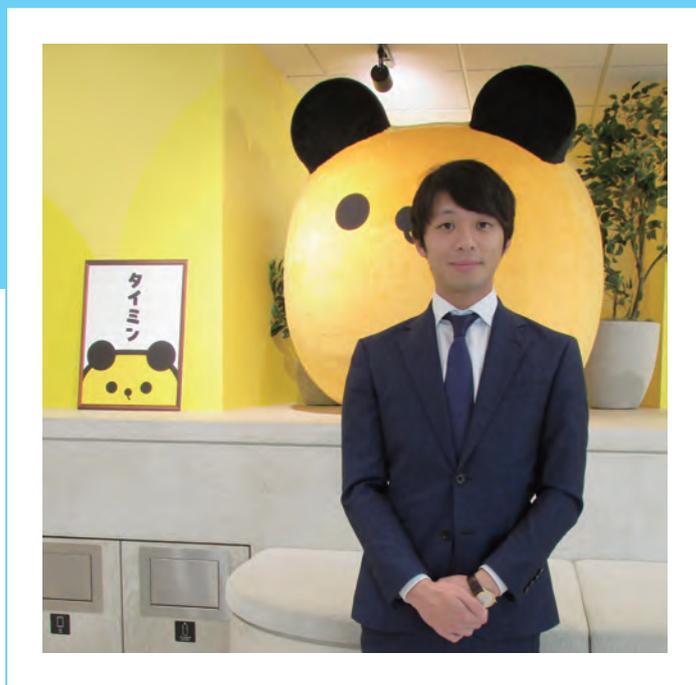


観光研究所だより

Vol.20 2024

[インタビュー]

ホスピタリティ産業の課題解決に 大きなインパクト!



株式会社タイミー
代表取締役

小川 嶺 氏

スキマ時間を活用して社会の人手不足を解消。新たなビジネスモデルを立ち上げた若手起業家、そして立教大学卒業生でもある株式会社タイミー代表取締役の小川嶺氏に、大学在学中からの創業精神、現在の事業内容、将来への展望などについてお話を伺いました。

(取材日: 2024年 春)

聞き手: 沢柳 知彦 (立教大学観光学部特任教授)

沢柳：本日はよろしくお願いします。まず、タイミーのアプリケーションの機能について教えてください。例えば、新座キャンパスの学生が遊びに行くついでに池袋でバイトをしようとしているとします。でも、バイトのニーズは東武東上線の反対側、例えば川越にもあるはずです。タイミーはそのような学生に川越のバイト情報を提供できますか？

小川：はい、もちろんです。アプリを開くと基本的に位置情報順になっているので、新座で開くと新座の案件が一番に出てくる形になっていて、池袋より近い川越の案件を先に目にすることになると思います。遊ぶついでに池袋でバイト、もしくはアプリで出てきた近くの川越でバイト、どちらも選べる提供になっています。

沢柳：検索上「場所」が非常に大きな要件で、ユーザーを引き付ける仕組みが分かりました。ありがとうございます。では、インタビューの本題に入らせていただきます。まず、学生時代の過ごし方について。サークルなどには入らず、いきなり起業クラブをつくられたのでしょうか。

小川：はい。もともと立教新座中学校・高等学校にいて、高校3年生の時にインターンを経験し、ビジネスに興味を持ちました。大学1年生の時に慶應義塾大学のKBCというビジネスコンテストで優勝させていただき、その賞金100万円でアメリカに渡り、帰ってきて起業した、という流れです。

沢柳：スキマ時間で働くというコンセプトに着目した理由は何なのでしょう。そもそも、何故起業したかったのでしょうか。

小川：自分の生き立ちを少しだけお話しすると、自分が18歳の時に祖父が亡くなりましたが、そこで自分の血筋が起業家なんだと知りました。その今はなき会社を、小川家を復活させたいという思いが強くなっていったのです。

起業は一発屋ではなく、5年、10年と続けていける必要があり、自分の情熱を注げるものなのかどうか、自分が欲しいと思うかどうか、というのは非常に重要です。なので、マーケットサイズが大きいかどうかよりも、自分が欲しいと思うものづくりをすることが自分の起業のきっかけになっています。(タイミーの前に立ち上げた)アパレルの会社も、自分は男子校でしたので簡単におしゃれになれるツールが欲しい、という思いがありました。

沢柳：その中でスキマ時間にバイトをさせることを簡単にする、というアイデアは、どこで着想を得たのでしょうか。

小川：最初のアパレル会社が1年でうまくいなくて会社を畳むことになり、お金がなかったので物流倉庫とか居酒屋とかでずっと日雇いバイトをしていました。そうした時に気付いたのが、日雇いバイトは応募の手間や電話確認など、様々なプロセスが発生していたので、それをアプリ1つですぐ働けて、すぐお金がもらえたらどんなに便利かなと思った次第です。

沢柳：やはりユーザー目線でスタートしたってということなんですね。ところで、商売でやる以上、早くマーケットシェアを確保したいとか、テクノロジー上の制約をクリアしたいとか、様々な問題がありそうですがいかがですか？



小川 嶺 (おがわ・りょう)

1997年生まれ。立教大学経営学部卒。

2017年8月(大学1年在籍時)にアパレル関連事業の株式会社Recolleを立ち上げるも、1年で事業転換を決意。様々なアルバイトを掛け持ちする日々の中で、「応募から勤務、報酬の受け取りが一つのアプリで完結できたら」と感じ、スキマバイトアプリ「タイミー」を開発。

2018年8月10日より「タイミー」のサービスを開始。「一人ひとりの時間を豊かに」というビジョンのもと、様々な業種・職種で手軽に働くことができるプラットフォームを目指す。

2023年Forbes JAPAN発表の「日本の起業家ランキング2024」では2位にランクイン。

2023年度立教観光クラブ賞受賞。

趣味は将棋で、認定三段の腕前。

小川：そういったことはあまり問題ではありませんでした。そもそも、マーケットがあるかどうかもわからない事業だったので。競合云々ではなく、自分たちがマーケットクリエイターだっていう考え方をもち、企業側に飛び込み営業をしながら契約企業開拓をしつつ、ユーザーサイドは立教大学の友達に使ってもらって不具合や意見を聞きながらアプリ開発を進めました。

沢柳：そういう意味では、ある程度成長するところまでは競争先がない状態だったのですね。

小川：はい。HR（人材管理）のサービスは基本的には面接することが必須です。そういう中で、タイミーは面接も履歴書もないという、ものすごく画期的なサービスですが、企業からすると怖いサービスでもあります。

沢柳：確かに、怖いですね。

小川：初めの頃は、非常に新しいことに興味のある企業さんしか使ってくれない状況でした。

沢柳：ブレイクスルー（突破口）はどこにあったんでしょう。

小川：やはり大手企業による導入だと思います。もともと個人店ばかりが使っていましたが、串カツ田中や牛角がチェーンで使い始めた時にブレイクスルーがありました。

沢柳：次に、お金の話をお聞かせください。アプリ開発にはそれほどお金がかからないのかもしれませんが、起業後早い段階で出資してくれる人がいたのでしょうか。それとも成長のスピードとお金の流れがうまくかみ合っていたのでしょうか。

小川：最初の頃は別に資金調達しなくてもいいかなと思っていました。なぜなら、同じ志を持った仲間と一緒にやったので人件費をかけずに営業ができるし、プロダクトもその仲間がくれればいい、というように、人件費が非常に低い状態から始まったからです。それでも、この仕事を本気でやっているという思いがあり、なおかつ「そのアイデアいいねっ」と言ってくださる投資家が現れました。資金調達のスピード記録ではないかと思いますが、2018年4月に1,200万

円のエクイティ調達をし、8月に2,400万円、さらに12月に3億円調達しているんです。

沢柳：すごいですね。それは小川社長のプレゼン能力が長けていたということですか。

小川：もちろんプレゼン能力のこともありますが、どちらかというと、この世界を信じていたってところが誰よりもあったのかなと思います。投資家の数も100人単位でお会いする中で、興味持っていただいた方がたまたまいたってところなんです。3億円の資金調達をした時は、月商はわずかだったんです。「根拠のない自信」がないとできません。また、リリースして1年4か月でテレビCMを打ちましたし、ロゴとかキャラクターのデザインも最初からやっていました。「こういうふうにやりたい」「こんな会社をつくりたい」っていうところは、戦略云々というよりも自分のやりたい姿を実現していくっていうこだわりなんです。

沢柳：なるほど。ところで、成長していく過程でコミッションが高過ぎるという声はありませんでしたか。手数料率30%はリクルートエージェント経由で正社員を採用するのと同じ水準です。

小川：当社のビジネスモデルは完全成果報酬型で、初期費用も月額費用もかかりません。今日のバイト賃金が5,000円だとして30%で1,500円。30%が高いんじゃないかと、1,500円で1人シフトに入れるバイトが確保できるから1回使ってみませんか、ということなんです。



嫌だったら1,500円払ってやめればいい。求人誌への出稿代、そこから面接を設定する手間、面接に来ない人もいる、来たら面接をする、面接で不合格も出る、入社しても3カ月以内離職率が30%、みたいな実情があります。「いや、求人広告のほうが安い」という古い考え方を持つ人に、「タイミーでいい人が来たら口説いたほうが、圧倒的にミスマッチもなくてコストも安いですよ」と説得しています。

沢柳：その効用は大変に大きいですね。私も以前、外資系の不動産会社で採用権を有する部門長を長くやっていたのでよくわかります。

小川：当社としては、もう一步踏み込んでBPR（ビジネスプロセス・リエンジニアリング）という形で、マルチタスク型から分業型に変えましょうっていう提案をさせていただいています。多くの方が、来た人がすぐに働けるポジションがないから受け入れられないと考えます。でも、正社員が皿洗いから接客から発注から全部やるってほんとに正しいでしょうか。皿洗いだけができるようにマニュアルを作り、そのポジションの求人をし、そこで働いてもらって、働きぶりを見ながら正社員として口説くっていうことができればベスト、すなわち、その業務の改善プロセスまで入らせてもらっているというのが、当社の強みです。

沢柳：それは大変良いポイントですね。ホテル業界でいくと、ハウスキーピングの人が足りないというのが一番大きな課題です。今まではハウスキーピングのベテランの方々が、布団を上げてシーツを剥がし、ユニットバスを洗って、みたいに全部1人でやっていました。ですが、シーツを剥がすのは誰でもできるので、その業務を切り離して未経験者に任せる、というホテルが出てきています。結果的にその人はシーツを剥がし続けるだけじゃなくて、その後、他のプロセスも学んでいくんだと思いますが、エントリーのところでは簡単になるということですよ。

小川：まさにそうです。当社のサービスは。そのBPRと一緒に設計していきましょっていうところにあります。

沢柳：それは、仕組みを作ることにお金をかけられる大きなチェーンだからできるということでしょうか。

小川：そんなこともないと思っています。幾つかのパターン分け、例えば、ビジネスホテル型、リゾート型、旅館型など。旅館の中でも幾つかのパターンに分かれると思います。パターンごとのマニュアルがだいぶたまってきているので、

個人商店の旅館でも十分に使えると思います。

沢柳：御社の営業部隊はホテルチームとか旅館チームみたいな業種別ということですか。

小川：そうです。うちはインダストリー別に分かれており、飲食、物流、小売りとホテルに分かれています。

沢柳：先日、「Aカードホテルシステム」というビジネスホテル会員組織の調査が発表されましたが、スキマバイト導入率は15%しかありません。伸びしろは大きいそうですね。さて、御社ビジネスが成長してくると他のプラットフォーム、例えばメルカリも参入してきます。でも、メルカリのお客さんを単につなぐだけみたいな格好では御社に太刀打ちできない、ということですね。

小川：おっしゃるとおりです。当社はメルカリのようなC to Cではなく、B to Cなので。まさに、企業開拓とそのエリアに住んでいる人の開拓は、車の両輪としてやってきました。コロナ禍でパート・アルバイトを手放したのに、今やインバウンドが復活し、求人もままならない。じゃあタイミーを使うしかないという先がホテル業界に一気に広がりました。これが今回、観光クラブで表彰いただいたポイントだと思います。

沢柳：私のゼミの学生でも「103万円の社会保障費用負担の壁」があって、私はアルバイトをしたいんだけど、お父さんから「これ以上働くな」って言われちゃう、という状況があるようです。その辺の対策はいかがでしょう。

小川：今やっていることとしては、月に8万8,000円以上、年間30万円、同一企業で稼げないブロックをかけています。

沢柳：なるほど。とはいえ、ちょっとこれは業界としては何とかしてほしいですね。

小川：おっしゃるとおりです。人手不足だと言っているのに、働き控え、みたいな感じで。

沢柳：分かりました。次に、組織編成の話に移りたいと思います。私の経験上、社員数が100人ぐらいになると、全員の入社面接をするのはつらくなるし、組織の機能分割も必要になります。タイミーの組織はどんな成長をしてきたのでしょうか。

小川：うちは100人の壁とかを感じたことはありません。1社目は友達と創業し、うまくいかなかったっていうところが大きかったので、タイミーは最初から一人で創めました。とにかく、150人ぐらいまで自分が全部採用をやり、3カ月に1回

は全社員と面談していたんですよ。なので、全社員のコンディションも全部自分が把握し、組織づくりに相当力を入れてきたという自負があります。今は1,000人ぐらいになっているので、さすがに一人ではもう見切れないですが。

沢柳：今後タイミーをどうしていきたいのでしょうか。例えば、現在は圧倒的に多い学生ユーザーに加え未開拓の主婦層を狙うとか。

小川：タイミーのワーカー数は現在700万人以上おり、そのうち学生の割合は31.8%です。学生にもかなりサービスが浸透していると考えられます。

あと会社員の方が結構使っています。働き方改革で、残業ができなくなった時間とか。

残りは主婦（主夫）や自営業・自由業の方。最近シニアの方も増えています。

沢柳：なるほど。今後の成長の方向性として、新商品開発に行きますか？ 新市場の開拓に向かいますか？

小川：新市場の開拓です。ホテル業界も新市場の開拓なんです。もともとは飲食業界で成長し、売り上げの8割が飲食業だったんですが、コロナでダメになりました。そこに、巣ごもり需要で物流業界での需要が急増し、物流にシフトしました。今は小売業界向けが立ち上がり、さらに直近がホテル。次は人手不足が顕著な介護領域かと思えます。また、万博もありますのでイベントスタッフ。他に、食品、清掃、農業、美容室、給食など、様々な分野が新市場です。

沢柳：産業別に攻めていくという戦略でしょうか。

小川：そうです。あくまで、やっぱりインダストリーの知見がないと、BPRの助言ができません。

沢柳：分かりました。最後に、私が経営者にインタビューする際、学生が学生時代に何をやっておくべきかを伺っています。

小川：いろんなことを経験するべきです。観光学部でいえば、少なくともニセコには絶対行ってこい、と伝えたい。インバウンドの特需を肌で感じてほしいです。起業の進め方という視点で申し上げれば、後継者がいない旅館に対して、自分が後継者になってやります、というのは、ものすごくビジネスチャンスがあると考えます。机上ではわからない、どういう人が来ていて、年収帯はどれぐらいで、そういうところで何が買われているのか。どういうものが今、足

りないのか、みたいなところは、やっぱり見に行ってみて自分で感じ取ることって非常に重要だなと思います。

ちなみに弊社はニセコ町・倶知安町との連携協定を締結しています。同エリアは観光需要が高まっている一方で人手不足が深刻です。タイミーであれば、ニセコエリアの住民はもちろん、札幌圏などからも働きに来てくれます。

沢柳：よく分かりました。ちなみに、起業はお勧めでしょうか。それともまずはどこかの企業に入ってから学べばいいとお考えでしょうか。

小川：一般論でいうと、起業はお勧めしません。自分の同世代で300人ぐらい起業しましたが、生き残っているのが今、10人ぐらいです。

沢柳：ただ、最初のご経験もそうだと思いますが、起業の失敗もまた貴重な経験ではないでしょうか。

小川：おっしゃるとおりです。起業には2パターンあって、自己資本でやる場合と人様のエクイティを入れる場合があります。他人の資本を入れての失敗は許されず、社会的責任の重さを感じながら起業するのは苦しいです。一方、自己資本でやるのはウェルカムだし、親からお金を借りてやるのもいいと思います。

沢柳：学生に向けて素晴らしい締め言葉の言葉を頂きました。では、第2、第3の小川社長が出ることを祈って、今回の対談を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。



インタビューを終えて
左側 沢柳知彦特任教授、右側 小川嶺氏

2024年度開講「ホスピタリティ・マネジメント講座」のご案内

宿泊産業を中心とするホスピタリティビジネスの運営・経営に関わることから、刻々と変化するOTA、ホテル資産投資、観光地開発、インバウンドなど観光立国としての政策まで、幅広い内容について最新の知識を各業界の第一線で活躍されている講師から直接聞ける全28回オムニバス形式の講座です。また、課外活動としてホテル見学会を実施し、ご好評をいただいております。ホテルで数年勤務されて今後のキャリアアップをお考えの方、異業種にお勤めで新しい視点や人脈を得たい方、これからホスピタリティ産業に進もうと考えている方など、多くの方のご参加をお待ちしております。

2024年度 講義時間表

火・木曜日 19:00～20:30、土曜日 13:30～15:00 ※開講式9月28日(土)は13:00～15:30

(2024年6月21日現在)

月	日	曜日	科目	講師
9月	28	土	開講式	観光研究所所長、立教大学 観光学部教授 橋本 俊哉
10月	1	火	観光の現状と今後の取組	観光庁 観光戦略課専門官 櫻本 義人
	3	木	本質から考える「ポストコロナにおけるホテルの意義の再定義」	宿屋大学代表、立教大学観光学部兼任講師 近藤 寛和
	5	土	旅館マーケティングの視点	國學院大學観光まちづくり学部教授 井門 隆夫
	8	火	ショッピングツーリズムとは	一般社団法人ジャパンショッピングツーリズム協会 代表理事/事務局長 株式会社USPジャパン 代表取締役社長 新津 研一
	10	木	世界のガストロノミーツーリズムの潮流 「食文化振興による地域づくりと生態系回復」	イタリア Genuine Education Network ファウンダー 株式会社 GEN Japan 代表取締役社長 土と生態系回復コンソーシアム JINOWA代表 齋藤 由佳子
	12	土	ホスピタリティ産業の環境経営	宮城大学食産業学群准教授、立教大学観光学部兼任講師 丹治 朋子
	17	木	地方での観光ビジネスについて	株式会社ヤドロク 代表取締役社長 石坂 大輔
	19	土	ホテルの人材育成と人的資源管理論	株式会社帝国ホテル 人事部人事課マネジャー 飯田 広行
	22	火	ホスピタリティ空間	桜美林大学 ビジネスマネジメント学群教授 山口 有次
	24	木	新たな旅館経営とDX化について	株式会社陣屋 代表取締役女将 宮崎 知子
	29	火	訪日外国人拡大中の地域戦略とじゃらん (OTA) 戦略について	株式会社リクルート じゃらんリサーチセンター長、「とーりまかし」編集長 立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科兼任講師 沢登 次彦
11月	7	木	ホテルと飲食業界との連携	いちご地所株式会社代表取締役社長 細野 康英
	9	土	ファミリービジネスのホテル運営とクラシックホテルの意義	株式会社呉竹荘代表取締役社長 山下 智司
	12	火	ホテル資産投資の概要	株式会社ブレインピックス 代表取締役社長、立教大学 観光学部特任教授 沢柳 知彦
	14	木	ホテルインテリアデザイン・観光デザイン	Mark Ito Design, Inc.、MID Hawaii、MID Japan株式会社 代表 立教大学観光学部兼任講師 マーク 伊東
	19	火	ホテルのレベニュー・マネジメント論	株式会社サイグナス 代表取締役社長 丸山 英美
	21	木	外食産業の持続的成長に向けて	ロイヤルホールディングス株式会社 代表取締役会長 京都大学経営管理大学院 客員教授 菊地 唯夫
	23	土	リゾート、ホテルと地方創生	株式会社リゾートプラス 代表取締役社長 澤田 裕一
	26	火	調整中	
28	木	ホスピタリティ産業のデータ活用	国士館大学21世紀アジア学部 講師 河田 浩昭	
30	土	国際ホテル経営論	H.A. Advisors, Limited 代表取締役社長 (元日本ハイアット代表) 立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科特任教授 阿部 博秀	
12月	3	火	ホスピタリティアセットマネジメント	一般社団法人Intellectual Innovations代表理事 立教大学観光学部兼任講師 池尾 健
	5	木	ホテル業とキャピタルマーケット	ホスピタリティキャピタルマネジメント株式会社 代表取締役 一般社団法人日本宿泊産業マネジメント技能協会 副理事長 平 浩一郎
	7	土	シティホテルの運営について ホテルマネジメント契約の今一高度化する求められる総支配人像	アーク&カンパニー 代表 後藤 克洋
	10	火	雪国文化を軸とした新たな観光ブランディング戦略	株式会社いせん ISEN corp. 代表取締役社長 井口 智裕
	12	木	ホテル旅館の法規	畑法律事務所 弁護士、立教大学観光学部兼任講師 小池 修司
14	土	ホスピタリティ産業の課題と展望-ホテル事業を中心として-	日本ホテル株式会社 常務取締役、東京ステーションホテル 総支配人 立教観光クラブ会長 藤崎 斉	

※日程などに変更が生じた場合、当研究所ウェブサイトにて最新の講義時間表を掲載いたします。

ホスピタリティ・マネジメント講座 ホテル見学会 ～2023年度活動報告～

メズム東京、オートグラフ コレクション (東京・竹芝)

2023年10月10日 (火)・17日 (火)

宿屋大学 近藤寛和氏より、「いま都内で最も勉強になるホテル」とご推薦いただき、好評だった2021年に続いて2年ぶりの開催となりました。コロナ禍を乗り越え、醸成されたメズム東京の世界観 (TOKYO WAVES) は国内外の顧客に支持され、さらに進化していました。開発のスタートから携わり、ご自身のつくりたいホテルをつくり、独自のコンセプトからぶれない運営を貫く生沼久総支配人に熱く講義していただきました。



正面玄関

生沼久総支配人による講義風景



正面玄関

チャペル

パレスホテル東京 (東京・丸の内)

2023年10月31日 (火)

2012年に建て替えが完成し、外資系ラグジュアリーホテルの激戦エリアにありながら、眼前の皇居外苑に呼応するかのような静謐とした緊張感をまとった佇まいのパレスホテル東京。2016年に日系ホテルとして初めてフォーブス・トラベルガイドにて5つ星を獲得以来、連続で獲得し、国内の独立系ホテルとして確固たる地位を築いています。「最も気のいい場所」を選んで造られたチャペルは、このホテルのおもてなしの神髄です。「美しい国の、美しい一日がある。」をコンセプトに、ホテルिएーからつくりあげた「最上質の日本」とその戦略を教えてくださいました。

参加受講生の感想

ホテルや観光ビジネスに何らかの形で携わっている方にとって、ホテル見学会は、「私はこんな素晴らしい仕事に携わっているのだ」という思いを改めて感じることができる機会ではないかと思いました。昨今、人材流出が業界の課題となってい

る中で、このような気付きは仕事をしていく中で各々の柱になりえる価値観であり、業界としてもこのような内なる感動を内包している人材を増やしていくことが重要と感じました。

(2023年度受講生 葛西玲里)

募集要項

1. 受講期間：2024年9月28日 (土)～12月14日 (土) 全28回
火・木曜日 19:00～20:30 (90分)、土曜日 13:30～15:00 (90分)
修了式：2025年2月1日 (土)
2. 講義形態：立教大学池袋キャンパスでの対面講義およびオンライン講義 (ライブ配信)
受講生は講義ごとに、対面講義・オンライン講義を選択できます。
ただし、講師の都合などによりオンライン講義のみの場合があります。
3. 受講対象：高等学校卒業以上もしくはそれと同等の能力を有する者
4. 受講料：▶一般 50,000円 ▶立教大学学生 25,000円
▶立教大学卒業生・学生 (立教大学以外) 40,000円
5. 定員：100名 (先着)
6. 申込期間：2024年8月1日 (木)～9月9日 (月)
7. 申込方法：観光研究所ウェブサイトの「ホスピタリティ・マネジメント講座」内の「日程・募集要項」欄より申込フォームURLにアクセスし、必要事項を記入してフォームを送信してください。
8. 特典：ご希望の方に、受講期間中立教大学図書館を利用できる図書館利用証を発行いたします。
9. 修了要件：全講義28回の3分の2以上の出席と修了レポートの提出



詳細はこちら

講座の詳細は、当研究所ウェブサイトをご覧ください。

講座に関するお問い合わせは、観光研究所事務局までご連絡ください。

2024年度「観光地経営専門家育成プログラム」開講のご案内

観光による地域振興を図るためには、変化する観光の動向を的確にとらえ、観光地を革新し、マネジメントする能力を持った人材が求められます。そうした知識・スキルを持った人材＝観光地経営専門家を育成することを目的とした知識の習得と、観光地経営に必要なとされる調査分析方法を学ぶ講座です。

経験豊かな講師陣とともに、町並み観光地や温泉観光地の経営、さらには観光を活用した新たな地域振興の取り組みに向けて有益なヒントが含まれる事例について、フィールドワークを通じて学びます。

募集要項

- 受講期間：2024年9月21日（土）～11月30日（土）
講義7日（14回）土曜午後
フィールドワーク：任意参加* 川越、湯河原（予定）
*交通費、昼食は自己負担です。
修了式および交流会：開催予定
- 講義形態**：立教大学池袋キャンパスでの対面講義およびオンライン講義（ライブ配信）
**対面参加を推奨しますが、オンライン参加も可能です。基本的に講義形式とし、実習形式をとる場合もあります。
- 受講対象：大学卒業以上、もしくはそれと同等の能力を有する者（社会人・大学院生など）
- 受講料：60,000円
- 定員：25名（先着順）
- 申込期間：2024年8月22日（木）～9月5日（木）
- 申込方法：観光研究所ウェブサイト（<https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/it/>）「観光地経営専門家育成プログラム」内の「日程・募集要項」欄より申込フォームURLにアクセスし、必要事項を記入してフォームを送信してください。
- 特典：ご希望の方に、受講期間中立教大学図書館を利用できる図書館利用証を発行いたします。
- 修了要件：出席状況・レポートの提出

2024年度観光地経営専門家育成プログラム講義時間表（予定）

★最新情報は研究所ウェブサイトに随時掲載します。

（2024年6月13日現在）

日付	講義名	講師
9/21（土）	オリエンテーション	橋本 俊哉 立教大学 観光学部 教授
	観光地における価値の創造	安島 博幸 立教大学 名誉教授
9/28（土）	未来につながる持続的な観光地経営とは？	沢登 次彦 株式会社リクルート じゃらんリサーチセンター センター長 立教大学大学院ビジネスデザイン研究科 兼任講師
	観光地からの情報発信	抜井 ゆかり 立教大学 観光学部 兼任講師 株式会社トラベル・キッチン 代表取締役
10/5（土）	観光地の調査分析方法1：地域の見方／歩き方 町並み観光地の経営	西川 亮 立教大学 観光学部 准教授
10/6（日）	フィールドワーク1（川越）	溝尾 良隆 立教大学 名誉教授
10/12（土）	サービスデザインで考える 観光のソーシャルイノベーション①	柴田 吉隆 千葉工業大学創造工学部 デザイン科学科 教授
	サービスデザインで考える 観光のソーシャルイノベーション②	
10/19（土）	温泉観光地の経営	梅川 智也 國學院大学 観光まちづくり学部 教授
	温泉観光地の経営事例分析	桑野 和泉 由布院 玉の湯 代表取締役 社長
10/20（日）	フィールドワーク2（湯河原）	梅川 智也 國學院大学 観光まちづくり学部 教授 桑野 和泉 由布院 玉の湯 代表取締役 社長
10/26（土）	観光地の調査分析方法2：地理学	佐藤 大祐 立教大学観光学部 教授
	観光地の調査分析方法3：経済学	野原 克仁 立教大学観光学部 教授
11/9（土）	地域人材を育てる新たな視点と仕組み	大西 律子 目白大学 社会学部地域社会学科 教授
	総括	橋本 俊哉 立教大学 観光学部 教授
11/30（土）	修了式・交流会	

観光地経営専門家育成プログラム ～2023年度活動報告～

フィールドワーク実習の概要（任意参加）

1. 川越（町並み観光地）

時間	内容
9:30	東武東上線川越駅観光案内所前集合 西口で西口地域の開発状況を視察 東口へ移動。 クリアモールを徒歩移動
10:00	中院・東照宮・喜多院 視察
移動	徒歩ないしはバス
12:00	博物館・本丸御殿 氷川神社視察
13:00	昼食（自由）
14:00	菓子屋横丁・一番街視察
16:00	意見交換会
17:00	解散



2023年度フィールドワーク川越にて撮影

2. 湯河原（温泉観光地）

時間	内容
9:30	湯河原駅集合
10:00	湯河原温泉に関するレクチャー（町役場） 湯河原町観光課
12:00	昼食
13:00	温泉街視察
15:00～ 16:30	意見交換会
17:00	湯河原駅解散



写真提供：湯河原町
フィールドワーク予定地の湯河原

2023年度受講生の声

- ・DMOの設立・運営に携わりたいという、自身の今後の計画にとってもマッチした内容でした。観光分野を体系的に学んだことのない私にとって、今後の学びや実践の方向づけを得られたこと、先生方や受講生の方々とのご縁をいただけたことなどが、大きな財産となりました。
- ・観光学部の先生方、名誉教授の先生方のお話は、どれも研究内容が深く示唆に富んでおり、これまでにない視点を得ることができました。フィールドワークや最後の立食もあり、参加者と交流できたことも良かったです。
- ・観光地経営について理論と実地の両建てのプログラムで、理論は地理学・経済学・統計学・労働論など、

多岐な分野から構成された内容でした。

- ・講師陣がとても充実しており、興味深い授業ばかりでした。観光が地域の人々、自然など地域の資源、行政、経済とあらゆることと密接にかかわっている点に改めて気づかされました。時代の変化・変容、様々な課題を理解したうえで観光業を成り立たせていくことが大切なのだと学ばせていただきました。
- ・土曜午後という時間も参加しやすく、各回非常に興味深いテーマでした。大学教授からの講義と、企業でビジネスの最前線にいらっしゃる講師からの講義と様々な切り口で学ぶことができ、新鮮でした。また、幅広い受講生の方々とコミュニケーションも勉強になりました。

講師・講義時間などの詳細は、観光研究所ウェブサイトをご覧ください。
講座に関するお問い合わせは、下記まで電子メールにてご連絡ください。
「観光地経営専門家育成プログラム」専用メールアドレス：ikusei-p@rikkyo.ac.jp



詳細はこちら

2024～2025年度「旅行業講座」のご案内

国家試験である旅行業務取扱管理者試験を2025年度に受験される方を対象に、「2024～2025年度旅行業講座」を立教大学池袋キャンパスにて開講いたします。この講座は公開講座ですので、立教大学の学生のみならず、他大学の方や社会人の方も受講できます。

募集要項 (予定)

1. 受講期間：2024年12月7日～2025年10月上旬* 土曜日13:50～15:20、15:30～17:00 (2回連続)**
*コースにより講義日が異なります。 **講義時間や回数が異なる日があります。
2. 講義形態：立教大学池袋キャンパスでの対面講義 (欠席時講義録画視聴可能)
3. 受講対象：高等学校卒業以上もしくはそれと同等の能力を有する者
4. コース・受講料・講義および模擬試験回数：

コース	受講料 (教材費含む) 立教大学学生/一般	講義回数	模擬試験回数
国内コース 国内旅行業務取扱管理者を目指す	50,000円 / 60,000円	30回	2回
総合コース 総合旅行業務取扱管理者を目指す	80,000円 / 90,000円	58回	3回
海外コース 国内旅行業務取扱管理者が総合旅行業務取扱管理者を目指す	45,000円 / 55,000円	28回	1回

5. 定員：50名 (先着順)
6. 申込期間：2024年10月24日 (木)～11月7日 (木)
7. 申込方法：観光研究所ウェブサイトの「旅行業講座」内の「日程・募集要項」欄より申込フォームURLにアクセスし、必要事項を記入してフォームを送信してください。
8. 特典：ご希望の方に、受講期間中立教大学図書館を利用できる図書館利用証を発行いたします。

講座の特色 株式会社JTB総合研究所 (業務提携)

- ①カリキュラム 12月からスタートするため、試験対策にじっくり取り組める
- ②講師 合格実績豊富なベテラン講師の指導
- ③教材 最新情報を網羅した「JTB総合研究所：旅行業実務シリーズテキスト」を使用
法改正や話題の観光地情報などその都度講師から補助資料を提供
- ④模擬試験 過去の問題を徹底分析し、本番に即した問題構成、出題形式
弱点克服に向けて講師がじっくり解説講義



海老澤 昭郎 講師 中原 智 講師



講座の詳細は研究所ウェブサイトをご覧ください。
講座に関するお問い合わせは、観光研究所事務局までご連絡ください。

詳細はこちら

最新情報は下記、主催法人HPに掲載されています。



■国内旅行業務取扱管理者試験の申込や実施
一般社団法人全国旅行業協会：
<https://www.anta.or.jp/exam/index.html>

■総合旅行業務取扱管理者試験の申込や実施

一般社団法人日本旅行業協会：
<https://www.jata-net.or.jp/seminar>



教材例

『2023年度観光研究所研究員 研究成果報告書』を発行



当研究所は、研究員の研究成果をまとめた『2023年度観光研究所研究員 研究成果報告書』を2024年3月31日に発行いたしました。本書は、観光研究所ウェブサイトにて、PDFデータを閲覧およびダウンロードすることができます。



詳細はこちら



2024年4月20日 研究成果報告会にて

『2023年度観光研究所研究員 研究成果報告書』 目次

巻頭言

観光研究所 所長 橋本 俊哉

オーバーツーリズムから持続性のある観光地に向けての価値創造

特任研究員 井上 晶子

旅館業法改正の経緯とポイントおよび今後の課題

特任研究員 玉井 和博

2022 JEJU visitor survey

研究員 李 彰美 (Lee, Changmi)

航空運送における旅客営業制度の考察

一座席販売の変遷による影響

研究員 伊藤 洋三

中国シルバーツーリズムの現状と問題研究

研究員 徐 翰林

ラバーダックと観光文化

研究員 田中 真知

フランス・カナダを中心とした観光研究とコピー版ルルド巡礼について

研究員 羽生 敦子

地方都市における産業転換と観光の浸透プロセス

研究員 丸山 宗志

新規研究員紹介

研究員 石野隆美

石野隆美と申します。2024年度より新規研究員として立教大学観光研究所に着任いたしました。浅学非才の身ではございますが、研究員として精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

私は2023年度に立教大学大学院観光学研究科にて博士(観光学)の学位を取得し、現在は立教大学観光学部や千葉大学文学部の兼任講師として、観光社会学や文化人類学に関する科目を講じております。

博士課程では、フィリピン・マニラの日系旅行会社にて長期フィールドワークを行い、フィリピン人による訪日観光ビザ申請プロセスを文化人類学的に調査しました。フィリピンから訪日観光をする場合、事前に観光ビザの申請が必要です。しかしその手続きは複雑で、審査通過も容易ではないため、訪日観光を行うことができる人は限られているのが現状です。そこで、国境を越えた移動のひとつとして観光を捉え直し、ビザや出入国管理に向き合うフィリピンの人びとの実践と経験を分析しながら、観光が越境移動の困難や政治性の問題と不可分である点に目を向けていく必要性を論じました。

現在関心を抱いている現象は、公共空間や観光地における、人の移動に対する工学的発想の展開です。持続可能性言説や感染症対策、オーバーツーリズム対策などの観点から、人の移動(群集流動)や混雑を空間設計思想

や政策、交通工学的知見やシミュレーション技術の導入などによっていかにコントロールし、効率的で安全な移動空間を実現するかという問題が、空港や駅などの「ターミナル空間」、そして大勢の観光者が集う観光地において問われています。人や車両のモビリティがますます社会課題として位置づけられていく今日において、そうした「人流工学的発想」が観光者の移動/観光実践やその経験といかに関わっていくのかを、文化人類学的に批判的に探究していきたいと考えています。



立教大学観光研究所 所員・研究員と役員の紹介

2024年度 観光研究所所員

役職	氏名	役職	氏名
所長	橋本 俊哉	○	村上 和夫
副所長	庄司 貴行		西川 亮
所員	東 徹		野田 健太郎
	韓 志昊		野原 克仁
	羽生 冬佳		大橋 健一
	石橋 正孝		小野 良平
	門田 岳久	○	小沢 健市
	上西 智子		斎藤 明
	川嶋 久美子		佐藤 大祐
	風間 欣人		沢柳 知彦
	久保 忠行		千住 一
	毛谷村 英治		高岡 文章
	葛野 浩昭	○	田代 泰久
○	前田 勇		杜 国慶
	舛谷 鋭	○	豊田 由貴夫
	松村 公明	○	安島 博幸
○	溝尾 良隆		

○……名誉教授

※敬称省略

2024年度 観光研究所研究員

種別	氏名	研究テーマ
特任研究員	井上 晶子	①オーバーツーリズム現象から考える観光地の持続性—観光地の持続性にとって、観光者に求められるものは ②ワーケーションに関する研究—ワーケーションは地域にとってどのような意義があったのか ③観光列車は地域活性化にどのように生かされているか
特任研究員	玉井 和博	地域一体となった観光地・観光サービスの再生・高付加価値化における宿泊施設の新たな役割 ～ESG対応としての宿泊施設の安心安全品質認証制度の確立～
研究員	羽生 敦子	ルルド巡礼について（継続）
研究員	李 彰美	濟州訪問観光客実態調査
研究員	石野 隆美	持続可能性言説と観光移動者へのまなざし：京都における「観光モラル」の人類学的考察
研究員	徐 翰林	観光開発と社会的幸福度の実証研究
研究員	丸山 宗志	地方都市における産業転換と観光の浸透プロセス
研究員	田中 真知	ラバーダックと観光文化 台湾の事例

顧問・参与

運営している公開講座に対する理解と協力を主たる目的として、関係機関・団体会長あるいは専務理事に顧問ならびに参与を委嘱している。

役職	氏名	役職	氏名
顧問	日本政府観光局 理事長 蒲生 篤実	顧問	公益社団法人国際観光施設協会 会長 鈴木 裕
	公益社団法人日本観光振興協会 理事長 最明 仁		一般社団法人日本温泉協会 会長 笹本 森雄
	一般社団法人日本旅行業協会 会長 高橋 広行	参与	一般社団法人日本ホテル協会 専務理事 掛江 浩一郎
	一般社団法人日本ホテル協会 会長 定保 英弥		一般社団法人全日本ホテル連盟 専務理事 有野 一馬
	一般社団法人日本旅館協会 会長 桑野 和泉		一般社団法人日本旅館協会 専務理事 青木 幸裕

※敬称省略。順不同 2024年6月11日現在

編集後記

当研究所では、ホスピタリティ・マネジメント講座、旅行業講座、そして観光地経営専門家育成プログラムという3つの講座・プログラムを運営し、多くの受講生を輩出してきました。同時に、観光に関する調査研究を支援すべく、これまで多くの特任研究員・研究員の方々を受け入れ、調査研究に取り組んでいただけてきましたが、その研究成果は、昨年度までの「観光研究所だより」にて、その一端を順次紹介するにとどまっていました。そこで、本号11ページでも紹介して

る通り、2023年度には、『観光研究所研究員 研究成果報告書』を刊行し、特任研究員・研究員の皆様から個別に研究成果を報告していただく報告会を開催し、研究交流を深めました。報告書の刊行と報告会は、今年度以降も継続してゆく予定です。報告書をご覧になると、観光研究が現代社会の多様な側面を研究対象とし、分析手法も多岐にわたることが理解できることでしょう。内容は当研究所のホームページでも閲覧可能ですので、どうぞご覧ください。

立教大学観光研究所 所長 橋本俊哉

観光研究所だより Vol.20 2024 2024年7月1日 発行

●代表者：橋本 俊哉 ●編集：加納 奈美・山口 かずみ ●制作・印刷：株式会社REGION

[発行] 立教大学観光研究所 〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 TEL.03-3985-2577 FAX.03-3985-0279
E-mail : kanken@rikkyo.ac.jp https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/it/